



令和5年度愛南町防災・事前復興フォーラム

「被災地の復興現状から学ぶ」～若者の目線で見た東北の今～



愛媛
CATV
動画

町で災害が起きた場合の「大災害にしないための備え」や「大災害になったときへの備え」として考える事前復興について理解を深めることを目的とした「令和5年度愛南町防災・事前復興フォーラム」を、2月10日(土)御荘文化センターで開催しました。

フォーラムでは、南予地方局愛南土木事務所や、消防本部防災対策課による事前復興への取り組み報告のほか、県立南宇和高校から東北視察の報告が行われました。生徒たちは、東北視察から1年が経過した現在まで学んだことや気仙沼高校との交流などを通して感じたことを発表し、「当たり前の日常への感謝を持つこと」、「自分にできることを考えること」、「災害について知り、行動に移すこと(知行合一)」などの大切さを語りました。



取り組み報告のあとは東京大学の羽藤英二教授の進行によるパネルディスカッションも行われ、愛媛大学防災情報研究センターの二神透副センター長、愛南土木事務所の白石克志所長、清水雅文町長と一緒に南宇和高校の生徒たちも討論に参加しました。

次世代を担う若者たちの発表や討論を聞いた参加者は、災害に備えておくとともに災害が起こった後のことを事前に意識しておく重要性を学ぶことができました。

POINT!



【事前復興とは】

災害が起こったときに適切かつ迅速に町を復興させるにはどうすればいいか、あらかじめ計画して取り組み、準備を進めておく考え方です。



能登半島地震被災地派遣(第1陣)職員による派遣報告会

2月22日(木)、能登半島地震被災地への支援のため、「愛媛県被災地支援連携チーム」の一員として、1月22日(月)から31日(水)まで石川県輪島市に派遣された職員3人による報告会が開催されました。

被災地において避難所の運営支援に当たった3人の職員からは、輪島市の鶴巣小学校に開設された避難所運営の状況や輪島市内の建物・道路等の被災状況が報告されました。職員は「これからも被災地の現状が変化していくでしょうし、その変化に応じて必要な支援のニーズも変わっていくと思います」と述べました。

報告を聞いた職員は、日ごとに変わっていく被災地の現状を知り、状況に応じた支援を継続する必要性を痛感するとともに、町においても災害が起きたときに備え事前復興計画を準備しておくことの重要性を再認識しました。

町はこれからも国の要請等に基づき、能登半島地震被災地への支援を継続していく予定です。

